HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	北海道大学附属図書館報「楡蔭」98号
Issue Date	1997-04
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/66402
Type	journal
File Information	yuin98.pdf



Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

ISSN 0917-3684

Hokkaido University Library Bulletin No.98 Apr. 1997

楡蔭

Yuin 北海道大学附属図書館報

目　次

○図書館の活性化のために
附属図書館長　原　暉之…… 1
○新しく北大へこられた方たちへの図書館案内 … 4
○資料紹介　大型コレクション …… 13
○平成８年度自然科学系図書資料購入費で
購入した資料 … 14
○平成８年度特別図書購入費で購入した資料 …… 14
○各種委員会委員 …… 16
○お知らせ …… 18
○会議 …… 23
○研修・講習会等 …… 25
○人事往来 …… 26

図書館の活性化のために

附属図書館長　原　暉之



館長就任にあたって

本年３月末をもって退官された吉田宏前館長の後を継ぎ，重責に身の引き締まる思いを抱いて，はからずも館長の大役を承った。以来４か月余り，その思いは今も変わらないし，おそらく在任中を通じて変わるまい。

館長就任前の数年間，図書館委員会の委員を務めた経験はあるものの，歴代の館長には申し訳ないことに委員としての寄与は微々たるものに等しかった。ただ，利用者としては，附属図書館を思う存分に使わせていただいた。

もとより館長に就任した以上，一介の利用者の延長で済まされないこと，言うまでもない。しかし，利用者の目線というものをこれからも大事にしたい。大学図書館に限ったことではないが，つまるところ利用者に対するサービスが正常に機能しているかどうか，大学図書館に即して言えば，学習・教育・研究との関わりで資料・情報を求めているユーザーに対し的確かつ効率的な橋渡しができているかどうか，という点こそ図書館にとって最も重要なチェック・ポイントだと思う。

さて，本題に入る前に一つの質問を投げかけてみたい。『楡陰』の読者の皆さんは，大学関係の法令に次のような条文があるのをご存知だろうか。

「大学は，学部の種類，規模等に応じ，図書，学術雑誌，視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料を，図書館を中心に系統的に備えるものとする。」（大学設置基準第 38 条第１項）

大学改革教育と附属図書館

基幹総合大学として位置づけられる北大の図書館にとって,大学設置基準第38条にうたわれている「学部の種類，規模に応じ」た各種資料の「系統的」な収集，その提供(同第2項)とは何を意味するのであろうか。このことは，全学のレベルでしっかりと考えてみる必要がある。

北大では，学部一貫教育体制への移行と大学院重点化が大学改革の最も重要な柱をなしている。いま北大の図書館に問われている最大の課題は，教育研究の根幹に結びついたこのような変革にどう関わって行くかであろう。

一般に学部一貫教育は基礎教育の充実として，また大学院重点化は高度専門教育の確立に関連づけられている。ここで留意されてよいのは，今日の学術研究が高度化・専門化・先端化する一方で，総合化・学際化・横断化の傾向をますます強めており，基礎教育と大学院教育を問わず総合性・学際性が大学教育の重要なカギになるという点である。しかも，総合的・学際的な教育研究を可能にする条件がそろっている点にこそ，基幹総合大学としての北大の強みがあるはずである。

北大の学部一貫教育は,「一般教育と専門教育の有機的統合」を掲げて平成7年度からスタートした。その際に「北大は単なる単科大学の集合体になり，総合大学としての特徴が失われる恐れがある」として，縦割りの弊害をいかに防止するか，という問題意識が出発点にはあったし，それは今後とも有効性を失わないテーマであろう。

教育の組織と体制が変わっただけではない。教育環境も徐々に変わってきた。今後の社会では自主的に問題を解決できる人材が必要とされることから，大学の教育も自主的な問題解決を重視するような形態に変化しつつある。たとえばグループで討論したり，スライドやビデオを作って発表するような形態がふえて行くであろう。このような変化に対しても，図書館の対応が問われている訳である。

現在，北大附属図書館は狭隘化した現在の施設にかわる新館が必要であるとして，新営構想を検討中である。しかし，教育研究は一刻も休止しない日々の営みであって，それを積極的に支援しようとする図書館にとっては，新営が実現するまで現在の本館および北分館の施設設備について，その利用環境の改善を棚上げすることはできないし，何もかもが新営で一挙に片づくと考えるのは現実的でない。

教育研究の総合性と学際性，教育環境の変化に注目した場合，現有施設改善の具体的対応としては，たとえば一般閲覧室という中途半端な利用形態を見直して，すでに満杯状態になっている開架スペースを拡大し，開架図書の量的・質的充実を実現するとともに，視聴覚室やグループ学習室の拡充をはかるなどの措置が不可欠である。

また，この点にも関係するが，全学共通教育ゾーンの中の高等教育機能開発総合センターに隣接する北分館は，その立地にふさわしく，全学共通教育支援機能を十分に発揮することが求められている。かつて「キャンパス・マスタープラン96」のゾーニング策定以前に立案された「附属図書館将来構想」は,当時の説明によれば,「今後の学部一貫教育の展開充実が期待される中で，現在の分館の存続意義が薄くなることが予想され」る，との予測を前提としていた。このような予測は本当に的中したのか，それとも的外れの杞憂だったのか，全学一貫教育体制が3年目に入った現時点での評価が必要となっている。

図書館では，学習図書館機能と研究図書館機能を高めるということがつねに課題とされてきたが，高等教育の多様な発展，その質的充実，大学院重点化は二つの機能の境界線をあいまいにし，少なくとも二つを峻別する考え方を過去のものにしている。いずれにしても問題点の一つは各種資料を「系統的に備える」ことが要請され，とくに今後，資源共有・情報発信が重視される中で，効率的な資料選定体制をどのように作り上げて行くかである。

附属図書館の主体的性格

ところで現行の大学設置基準は平成3年7月

から施行された。それを一言で要約すれば，大学設置基準の大綱化であり，実際たとえば学部教育の見直しがこの大綱化に端を発していることはよく知られている。これに対して，図書館の位置づけをめぐって旧基準と新基準のあいだに画期的ともいえる変化があったことは，それほど広く知られていない。

旧基準では，図書館は「医務室，学生自習室，学生控室」と並ぶ「校舎等施設」の一つと位置づけられ，静態的・受動的な意味の施設であった。新基準では，いちおう「施設」の一つとして扱われながらも，以前に比べると，動態的・主体的な位置づけが前面に出ている。あえていえば，大学図書館は大学の教育研究活動の不可欠の構成要素として規定されるようになったのである。

大学図書館の学習図書館機能とか，研究図書館機能というのは，学生なり研究者なりが学習や研究のために図書館を利用する，その利用に対応する図書館の機能のことである。このようにいっても循環論法になってしまう。

いってみれば，学習図書館機能や研究図書館機能は，図書館の静態的な側面に関係づけられた機能であろう。これとは別に，図書館の教育的機能，図書館の研究的機能という，より動態的な側面がありうると思う。つまり単なる施設としての図書館ではなく，主体としての図書館を語る時期に来ているのである。

大学設置基準は図書館職員についても規定している。「図書館には，その機能を十分に発揮させるために必要な専門的職員その他の専任の職員を置くものとする」（第38条第4項）というものである。これだけでは分かりにくいが，この規定の根拠となった大学審議会大学教育部会報告の中の文言はこうである。

「図書館の機能を強化するためには，司書のほか，コンピューターによる情報処理，データベース・サービス，古文献・専門分野別情報処理等を担当する専門職員を適切に配置することが重要であり，……配置が必要である旨の規定を新たに設ける。」

大学図書館の機能の高度化にともなって，文献検索法等の利用者教育，情報リテラシー教育等に関わる教育機能，あるいはまた情報処理論，書誌情報学等に関わる研究機能を担い得るような専門的職員が今や不可欠となっている，ということが，この部会報告から読みとれるであろう。

上記の引用文は，図書館の機能の高度化に対応しうる教員の配置の必要性にまで踏み込んではいないが，国公私立の先進的大学図書館では「研究開発室」を設けて専任または併任の教員を配置するケースが次第に定着しつつある。この点で北大はどう対処するか。これも早急に解決を要する問題の一つである。

以上，紙幅の制約上，意を尽くさないことは百も承知ながら，大学設置基準の図書館条項を手がかりに，北大附属図書館は学部一貫教育体制とどのように「リンクを張る」べきか，また，図書館自身の教育的，研究的機能をどのように高めて行くか（大型計算機センターが研究開発部をもち，情報処理教育センターが教官定員を擁し，検討中の学術資料館（仮称）も研究開発部を構想している中で，情報関連の諸施設のうち，ひとり附属図書館が事務部だけで対応しているのは片手落ちではないか），という点に注意を喚起しようとした次第である。

最後になったが，図書館の活性化になくてはならない存在が図書館委員会である。図書館委員会はいま「総動員」の状態に入っており，すでに前館長のもとで設置されていた「新営検討小委員会」に加え，本年6月から「電子図書館検討小委員会」と「学術文献データベース等検討小委員会」が発足し，それぞれの検討課題についてフル稼動で討議をはじめたことをご報告しておきたい。

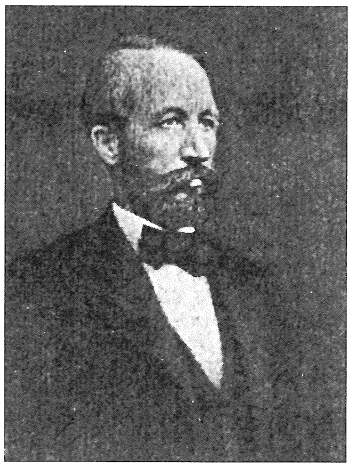
こうして，22名から成る図書館委員会の部局選出委員はほとんど全員がどれかの小委員会に属し，どの小委員会でも図書館職員との意見交換を交えながら，活発な討議を通じて図書館活動に大きな刺激を与えて下さっている。この場をお借りして，委員の諸先生の英知と熱意に心から敬意と感謝の気持ちを申し述べたい。

（はら　てるゆき，スラブ研究センター教授）

新しく北大へこられた方たちへの図書館案内

図書館からのお誘い

こんにちは!!　新入学生・院生，新任教官の皆さん。新たに北大のメンバーになった皆さんは希望に満ち溢れていることと思います。北大図書館は，皆さんを歓迎します。



クラーク(北方資料室蔵写真)

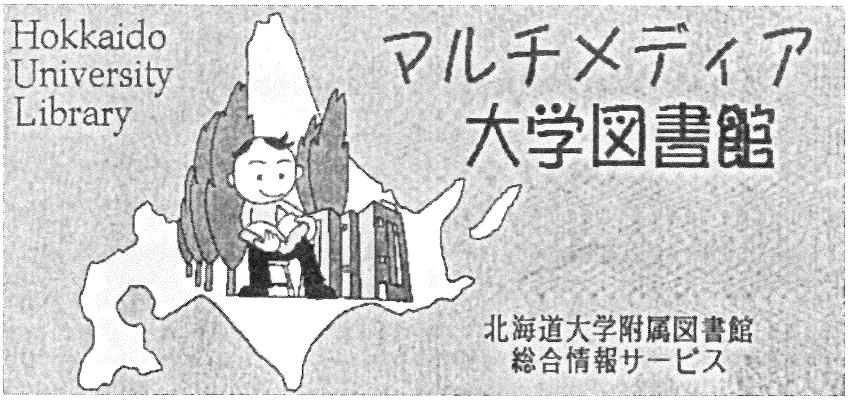
さて，皆さんはどういった時に図書館を利用しようと考えるでしょうか。図書館で自分の持っている研究テーマを調べることもあるでしょう。ゼミや講義でレポートが課され，多くの資料を自分で探しださなければならないこともあるでしょう。大学図書館はこういった要望にも答えます。北大の図書館には調査・研究を支援するための資料・スタッフがそろっています。

また，読書が趣味の人は専門書に限らず手当たり次第に本を読むのが楽しみでしょうね。大学図書館は教養・娯楽としての読書をしたいという要望にも答えます（専門書だけでなく文庫・新書・歴史読み物，時には　これは!　とか　これは？　とかいう本もあったりして)。

はじめ，大学図書館は敷居が高いと感じるかもしれませんが，何はともあれ一度お越しください。きっと新しい発見やいろいろなたのしみが見つかります(ほんとにいろんな資料があります。附属図書館北分館には映画のコレクションさえあるのですよ。だいたい北大の建物は迷路みたいになっているので，図書館に行く前に探検気分が味わえるかもしれませんね。)。

そうそう，忘れてはいけないことに今，大学図書館はインターネットを通して，大学に閉じこもることなく世界の情報の海に乗り出そうとしています（残念ながらコンピュータの画面で本を読めるところまではいっていないのですが)。

北大附属図書館のインターネットのホームページは，http://ambitious.lib.hokudai.ac.jp/です。ここから北大の各図書館の紹介や行事に関する情報を手に入れることができます。また，北大の歴史に関する資料を見ることもできます。北大の全蔵書を調べることもできますし，各種のデータベースへの接続の窓口ともなっています。ぜひアクセスしてください。



北大の図書館の紹介

附属図書館(本館)　Tel(内)3956(外)706－3956

全国でも有数の蔵書を誇り，専門的な資料を数多く所蔵しています。専門的な図書や雑誌ばかりでなく一般的な書籍も多数所蔵しています。また，内村鑑三文庫など個人寄贈文庫・多くの貴重書等も収集しています。附属図書館本館では所蔵資料を自由に閲覧できるほか貸出サービスも行っています(一部制限あり)。自習や語学練習用の施設もあります。皆さんの調査研究や資料探しの相談窓口もあります。

このように附属図書館本館には皆さんの学習・研究を支援するための資料・設備とスタッフがそろっています。

なお，附属図書館本館に附置された北方資料室は北海道・北太平洋沿岸地域に関する貴重な資料を収集しています。北方関連のコレクションとしては，国内有数の存在です。北大の歴史についての資料もここにまとめられています。

利用の詳細については，総合カウンターで差し上げている図書館利用案内を御参照ください。

利用時間

開架閲覧室，開架図書の貸出サービス	平日　9：00～22：00　土日　11：00～17：00
他の閲覧室，書庫，他のサービス	平日　9：00～17：00　土日　休室

※但し，土日開館期間中には教官・院生等は書庫に入り自由に閲覧することができます。詳しくは総合カウンターへお問い合わせください。

附属図書館(北分館)　Tel(内)5576(外)706－5576

主に低学年の学習の援助を目的としています。広く教養を身につけ，楽しく学生生活をおくる場として利用していただけます。所蔵資料を自由に閲覧できるほか貸出しサービスも行っています。図書・雑誌・参考図書のほかビデオテープ・語学テープ等を所蔵しています。自習室・語学演習室・視聴覚室・演習室もあります。

利用の詳細については，総合カウンターで差し上げている分館の利用のしおりを御参照ください。

利用時間

一階・二階	平日　9：00～22：00	土・日曜　閉館
三階・四階	平日　9：00～17：00	

各学部図書室

北大では各学部と一部の専攻に図書室があります。主として，その学部の専攻領域に関する研究・教育用の専門書・雑誌を所蔵しています。利用条件は各図書室で異なりますので，お問い合わせください。

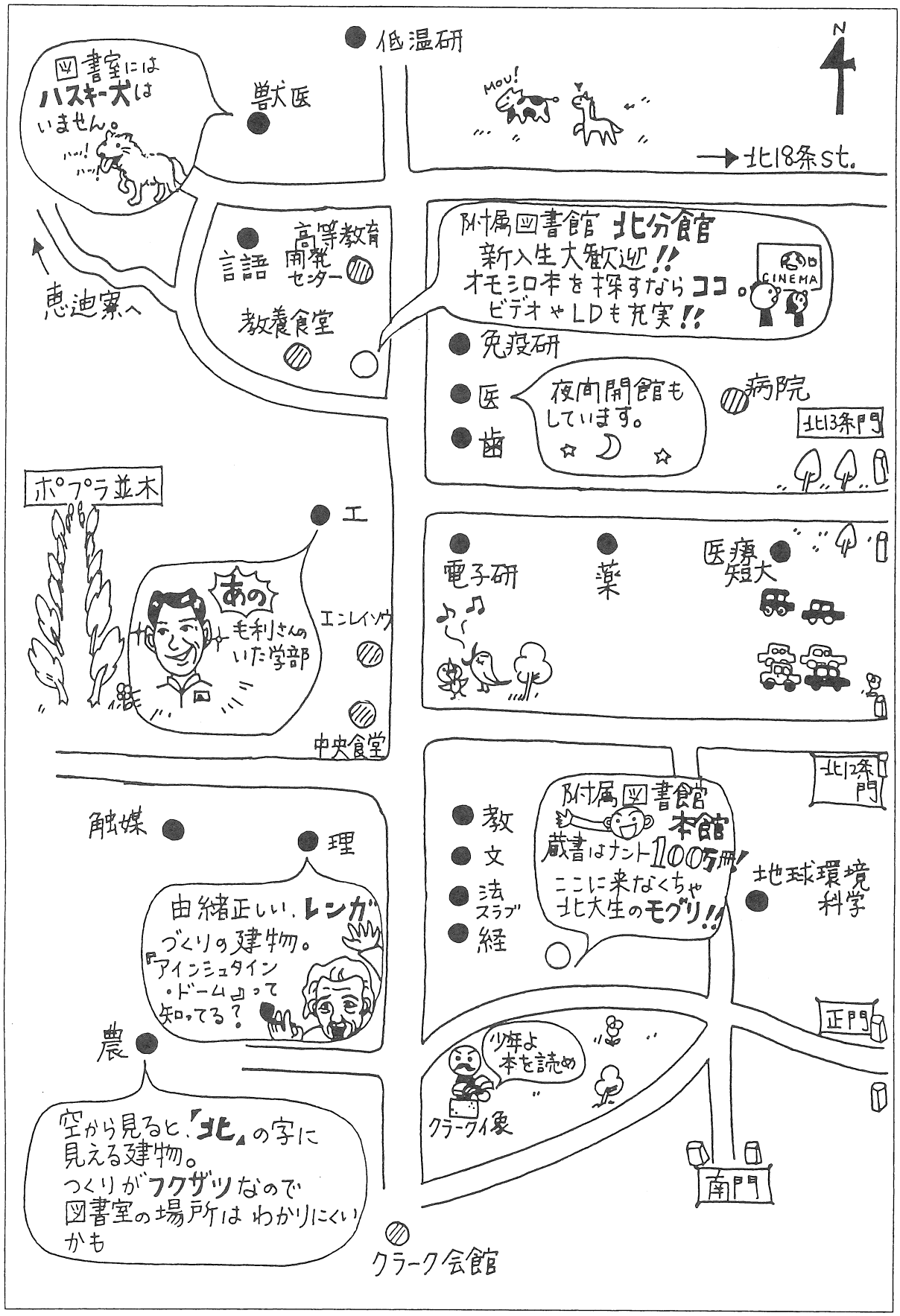
なお，医学部図書館は夜間開館（平日 9：00～22：00）を行っています。

☆各図書館の位置についてはマップを見てください。連絡先は次のとおりです。(内線)

文学部　3061	教育学部　3085	経済学部　3168	理学部　2667	医学部　5016
歯学部　4210	薬学部　3249	工学部　6136	農学部　4122	獣医学部　5180
水産学部　14－5517	地球環境研究科　2208	低温科学研究所　5449	電子科学研究所　3363	
触媒化学センター　2905	スラブ研究センター　3310	免疫科学研究所　5516	医療技術短期大学部　3319	

お昼休み

CAMPUS MAP



北大の図書館のサービス

貸出・閲覧・文献複写・機器利用（視聴覚・情報）・施設利用サービス

各館ごとに条件が異なります。利用にあたってはお問い合わせください。

相互利用サービス

北大に求める本がない場合，他大学図書館・国立国会図書館・研究機関等の資料をコピーしたり，本そのものの貸出しを受けることもできます。このサービスの窓口は，法学部・経済学部・教育学部の方については本館相互利用係（内線 4095），その他の方については所属学部です。

蔵書検索サービス

北大の蔵書は原則としてコンピュータ蔵書検索システム（OPAC）を用いてお探しください。OPAC はもよりの図書室で利用できます（その他，附属図書館ホームページでは WWW 版の蔵書検索を利用できます。）。

なお，一部にコンピュータ入力されていない本があります。この場合はカード（附属図書館＝全学部分，各学部＝自学部分を所蔵）で探すことになります。

コンピュータを利用したサービス

次のようなコンピュータを利用したサービスを行っています。詳細は附属図書館本館の参考調査掛（内線 2973）にお問い合わせ下さい。なお，附属図書館**ホームページに詳しい案内が掲示されています。**

各種データベース検索サービス（附属図書館本館　参考閲覧室）

雑誌や新聞等の記事を調べることができる，各種のデータベースを提供しています（研究室で使用できる場合があります。ホームページをご覧ください。）。

総合情報ターミナルコーナー（附属図書館本館　北分館）

このコーナーではインターネットに接続されたパソコンを使い，各種の情報を検索することができます。フロッピーを持参すれば入手した情報を持ち帰る事ができます。

利用資格

北大の図書館はすべての北大の構成員に開かれています。**図書館を使うときは利用証 or 学生証を忘れないでください。**なお，資料の貸出を受けたいという方は，登録手続きが必要な場合があります。

身　分	利用に当たって必要とするもの
学部学生・大学院生	学生証
教　職　員	利用証 所属する学部図書室で発行　法学部は附属図書館で発行
研究生・聴講生等	利用証 附属図書館で発行　医学部・農学部・薬学部・医短は所属学部図書館で発行

利用時間についての注意

春・夏・冬期の休業期間等には各図書館の開館時間が変更になります。臨時に利用時間を変更することもあります。変更の案内は掲示板のほかインターネットや hines（学内 BBS サービス）にも発表されます。

楡　　蔭(北大図書館報)

新人特別講義 北大蔵書検索システム OPAC

北大図書館利用の前提となるコンピュータによる蔵書検索システム OPAC の使用方法を解説します。OPAC はお近くの図書室等に備え付けの利用者用コンピュータで使用できます。
(インターネットの北大図書館ホームページでも蔵書検索システムWWW版を 24 時間利用できます。)

なお，北大蔵書検索システムでは雑誌のタイトルは検索できますが，その雑誌に何が掲載されているかはわかりません。雑誌の掲載記事については別のデータベースを検索する必要があります。

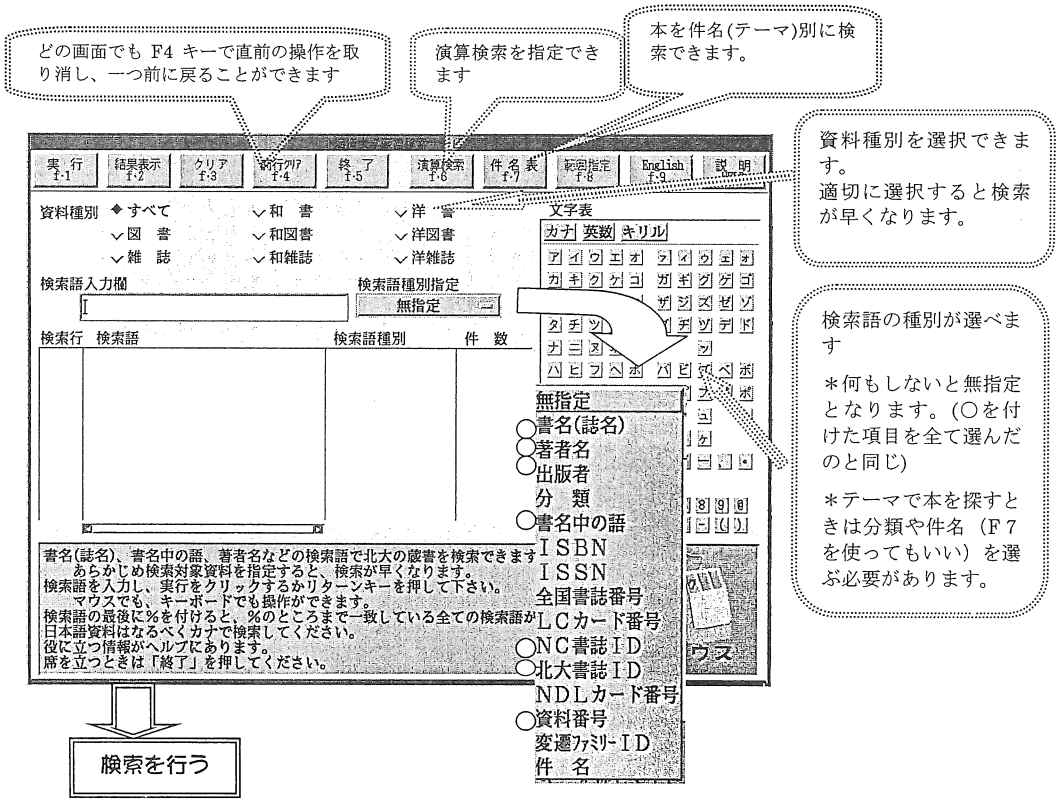
また，古い本 ('85 年以前に受け入れたもの) のなかには，いまだにコンピュータに入力されていないものがあります。文学部所蔵の中国書もコンピュータに入力されていません。その場合は図書カードで探すことになります。各学部図書室には自らの学部の，附属図書館には全学部のカードがあります。

入門編

OPAC の検索の流れは，だいたい下図のとおりです。細かいことはともかく，図のイメージを覚えておいてください。操作はそんなに難しくないので，いろいろさわって慣れてください。

1．検索条件設定（最初にすること）

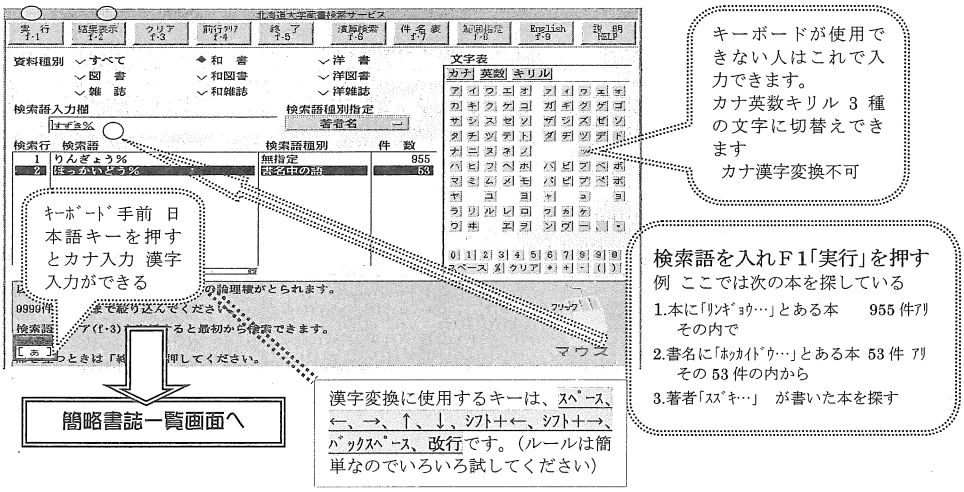
検索条件を設定します。何も指定しなくてもかまいません。何も指定しないと基本検索となり，入力した検索語がすべて含まれる本を探すことになります。〈論理積演算（A and B）を使用〉



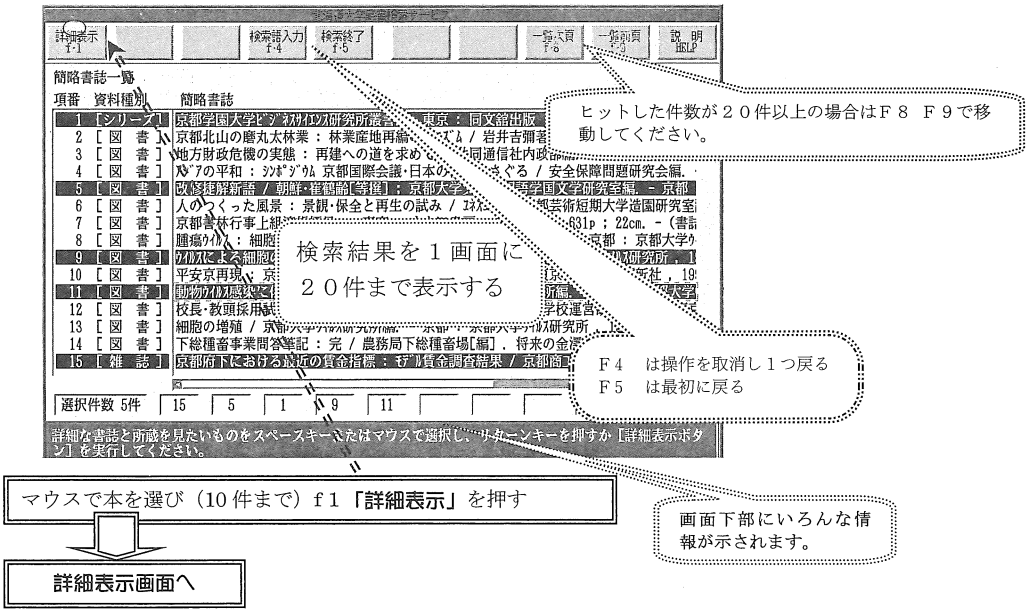
2．検索画面…検索語を入力して検索を実行します。

1．**検索**…検索語を入力してＦ1「実行」を押すとデータベースの検索が開始され，指定の検索語で全蔵書を探すと何件ヒットしたかを表示します。これを数回繰返し件数が十分に絞られた後，結果を表示させます。

2．**検索結果を見る**…Ｆ2「結果表示」を押すと，「簡略書誌一覧」画面（次頁）に切り替わります。

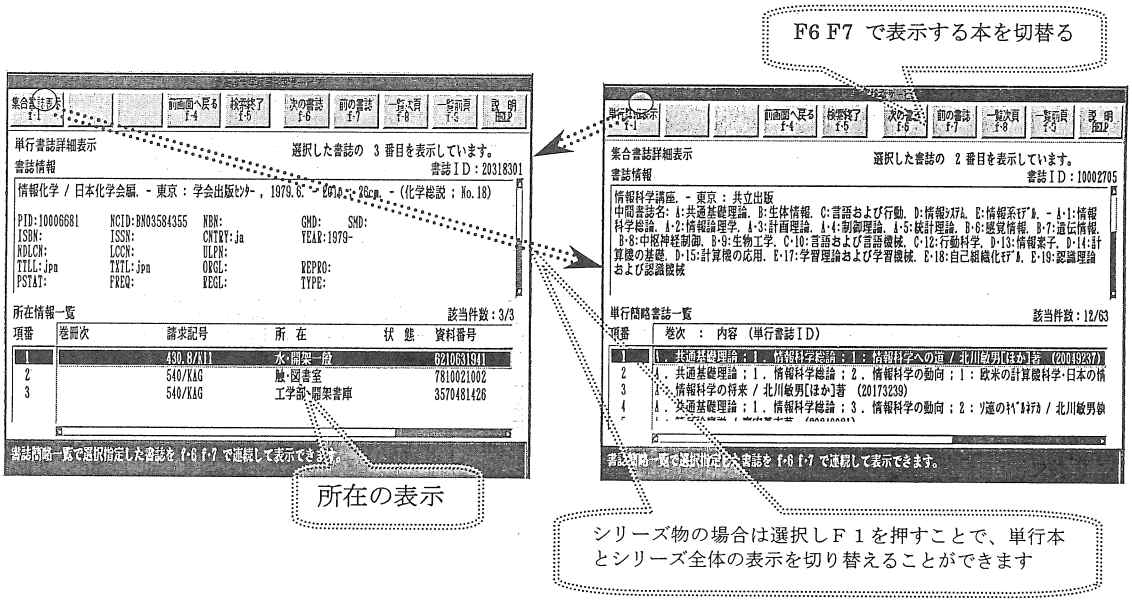


3．簡略書誌一覧表示画面…検索結果を表示します。最初に簡略書誌一覧が表示され，そこから必要な本を選ぶことで詳細画面（次頁）を参照できます。

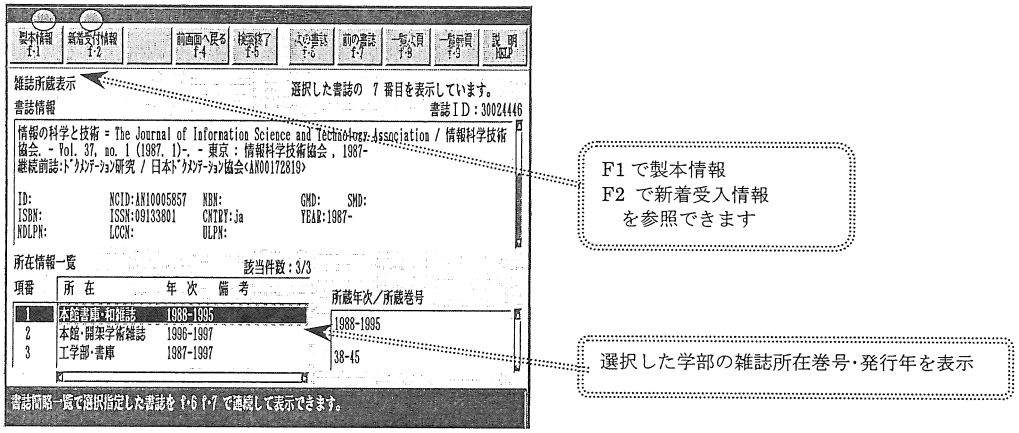


4．詳細表示画面…所蔵場所他，その本についての情報が書かれています。次の3種類があります。

＊単行本　　＊シリーズ物



＊雑誌



＊これらの画面図は，空白を切り取る等の加工を加えていますので，実際のOPACの画面とは少し異なることがあります。

応用編

検索についての提案

図書の検索でコンピュータが探すのは本に書かれている書名ではなく，図書館がその本について作成したいろんな索引語です。そのため，実にいろいろな問題が生じます。(例　検索語を入力するためのルールが複雑，コンピュータ用索引語（書名）と目の前の本に書かれている書名が異なる etc)これらの問題のため，検索方法によっては目の前にある本を検索してもヒットしないなんてことも起こります。

そこで，これらの問題に余り煩わされず，できるだけ探している本をもらさず検索・発見するための方法を提案します(さらに、よりよく検索するためには，検索語を入力する際のルール(後述）にも注意してください。)。

1．検索語の語尾には必ず「%」をつけておく。%は前方一致検索をするための記号です。

2．検索語は，洋書は単語(語尾が変形する場合は単語の語幹)＋%，和書は単語の漢字のヨミ＋%とする(できるだけ短く切るのがこつ)。こうすることで「書名」「著者名」等に加えて「書名中の(重要）語」という索引語項目も検索対象となります（前置詞　助詞　漢字形があると「書名中の語」は引けない。)。

(1) 「書名」からだと，検索語と索引語が書名の頭から終わりまで（あるいは%まで）正確に一致していないとヒットしないのですが，「書名中の語」からだと単語が一致しているだけでヒットします。だから，本に書かれている書名や一般に理解されている書名とコンピュータ上の索引語(書名)が異なる場合でも OK です。

(2) 「書名中の語」という項目では漢字の読みや訳語の表記仕方　等が複数ある場合でも両方検索可能となっていることが多いので，検索もれが少なくなります。

(3) 「書名中の語」を使うと件名検索（＝特定のテーマについて書かれた本を探し出す）を行うのと同様な効果が期待できます（本の書名にはその本の主題が書かれていることが多いから。)。

入力例「人はいかに学ぶか：日常的認知の世界」を探す場合（凡例　検索成功→○　検索失敗→×）
＊次のように入力すると「書名」のみが検索対象となります。
〈ヒトワイカニ〉→○，〈ひとはいかに%〉→×(読みで検索→助詞は発音どおり)
〈人は%〉→○，〈人わ%〉→×　　(漢字形で検索→助詞は表記どおり)
〈人はいかに学ぶか〉→○，〈いかに学〉→×，〈日常的認知の世界〉→×
(書名は頭から正確に入力する必要がある。本にどう表記されていようと図書館でサブタイトルと判断したものを検索語にするとヒットしない。)
＊次のように入力すると「書名」に加え「書名中の語」も検索対象となります。
〈ひと%〉→○，〈ニチジ%〉→○，〈にんち〉→○，〈セカイ〉→○，〈マナブカ〉→○，
※〈日常%〉→×，〈にんちの%〉→×（「書名中の語」は読みからしか引けない，漢字形のまま・助詞があると×）
「書名中の語」からも検索できた方が検索語入力上の制約が少なく，書名中のいろんな部分が検索対象となります。

3．「書名中の語」を使用するとヒット率が高まります。多すぎて件数が十分に絞れないときは，さらに著者名や件名（検索語種別指定か F 7 キーを使用）で絞るとよい。
（2 番め以降の検索語として著者名を使用するときは「姓＋%」とすると十分な場合が多い。)

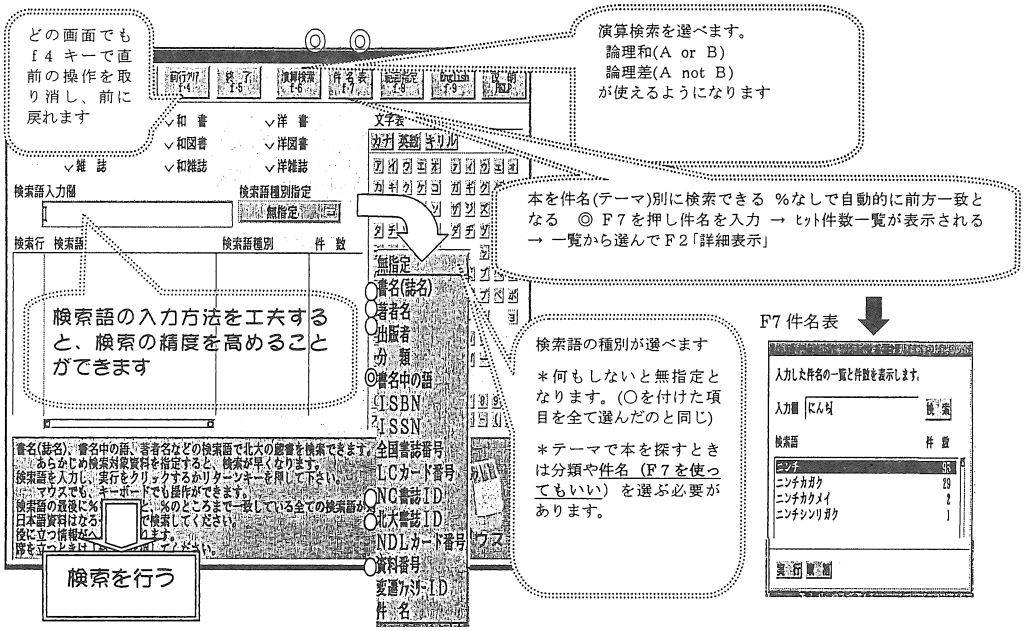
入力例　木田元訳・著「現象学ナントカ（正確な書名不明)」を探す場合
〈げんしょうがく%〉で 212 件ヒットさらに次の検索語〈キダ%〉で 11 件ヒット

4．最初に入力する検索語にはあまり一般的なものは選ばない。こうすることでコンピュータのレスポンスを高めることができます。

例　検索語を入力する順を 1「リンギョウ%」 2「ホッカイドウ%」とすると，逆の順で計算した時よりも約 3 倍早く検索結果が表示されます。参考　単独のヒット件数は りんぎょう%…962 件／ほっかいどう%…4,667 件です。

5．失敗してもＦ5「終了」やＦ3「クリア」を使用せず，Ｆ4キーで1ステップづつ前に戻る。
6．演算検索を使ってみてください。特に論理差条件による検索（A not B）は役に立ちます。最初の画面でＦ6「演算検索」を選択すると演算検索モードに入ります。

入力例　書名に現代経済と書かれた本のうちでアメリカと書かれていない関する本を探す。(論理差の例)
＊Ｆ6「演算検索」を選ぶ
＊1．〈ゲンダイ%〉 2．〈ケイザイ%〉 3．〈アメリカ%〉それぞれ単独で検索実行
＊画面の説明にしたがって@(1＊2)−3と入力し検索実行
この意味：書名中に「ゲンダイ…」かつ「ケイザイ…」と書かれていて「アメリカ…」と書かれていない本を探す



◎最後に検索語を入力する際のルールを簡単に説明します。
＊洋書を検索するときは冒頭の冠詞は取る。また，常に音標記号をはずす。
(Die neuen Beiträge → neuen beitrage, Neue Beitraegen は×)
＊和書でも洋書でも氏名は「姓＋スペース＋名」
(John F. Kennedy → Kennedy John F　但し書名中の名は表記どおり)
＊かな入力する場合，漢数字…原則として読みによるがそうでない場合もある。英数…表記のまま。
(例　二二六→ニニロクジケン，第二百十回，ダイ210カイ，PC98入門→PC98ニュウモン)
＊漢字で検索する場合，新仮名遣い，旧仮名遣い，当用漢字，旧漢字の違いは本の表記の通り。
(図書に書かれている書名が旧漢字によっているのであれば，新漢字で検索しても発見できないことが多い。)
漢字で検索するときは助詞は本の表記の通り。かなで検索するときにはこれらのすべてを発音にあわせる。
(例1　漢字で検索　遠ひ國，人は，海へ→このまま
2　カナで検索　トホヒクニ→トオイクニ，は→ワ，ヲ→オ，づ→ズ，日本→ニホン，
私→ワタシとワタクシの場合アリ)
＊中国書は日本語漢字の読みによる。(例　中国四川省→チュウゴクシセンショウ)
＊「件名」については和書の場合漢字形でも読みでも検索できる。洋書の場合は，英語の件名がついていることが多いが，その図書の自国語でついていることもある。
＊和書の場合，「書名」「著者名」については漢字からもその読みからも検索できる。
「書名中の語」については漢字の読みからしか検索できない。(漢字の形×　助詞等があると×)
＊キリル文字書の場合，「書名」「書名中の語」についてはキリルでもアルファベット翻字のいずれも○。
「著者名」についてはアルファベット翻字のみOK。キリル文字形は×。
＊検索語の語尾に%をつけることで，前方一致検索ができる(例　検索語に「げんだい%」と指定すると「現代史」も「現代音楽」も「原題はなあに？」もヒットする。中間一致や後方一致は×)

資料紹介　大型コレクション

『ロシア帝国および近隣諸国詳細図』について

スラブ研究センター講師　兎　内　勇津流

このたび附属図書館に収蔵された『ロシア帝国および近隣諸国詳細図（Подробная карта Россiйской Имперiи и близь лѣжащихъ заграничныхъ владѣнiй)』は，Депо картによって1801－1804年にかけて編集，印刷された。これは，軍に設けられた地図編集局である。

おおむねシベリアを除いたロシアとその周辺部が，この図の範囲である。南はアゼルバイジャンのバクー，グルジアのチフリス（現在のトビリシ），ブルガリアのソフィア，東は中央アジアのヒヴァ，アラル海，西シベリアのトボリスク，西はポーランドのトルンやセルビアのベオグラードあたりまでを収める。縮尺は1：840,000。20露里（約21.3 km）を1インチに縮めている。銅版による単色印刷。国境，県境を水彩であとから彩色している。この縮尺は，細かな作戦行動の立案には不十分だが，なんとか全ての村落など書き込むに足るものと言えよう。

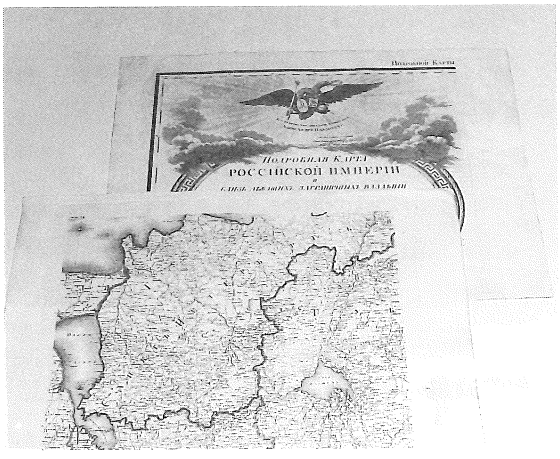
国境，県境，河川，主要道，都市，村落，城塞，遊牧民に対する防衛線などを表示する。村落は教会を備えたселоか教会のないдеревняか，人口は500人以上か以下かを記号で区別する。図中に標高の表示はない。等高線は用いられず，山岳地帯は一種の鳥瞰図的な模様で表現する。

図法の表示はない。円錐図法の一種と見られるが，筆者には特定できない。

全107枚のうち，1枚目は表紙であると同時に北西端の図でもある。2枚目から5枚目までは，何番の図がどの部分にあたるかを表すいわば目次の図。4枚を田の字型に貼り合わせて使うようにレイアウトされている。6枚目以後は詳細図である。これも4枚単位で田の字型に貼り合わせて使うようになっている。105枚目から107枚目は，それまでの図からはみ出た，カフカスのナヒチェバンと中央アジアのヒヴァの図である。

この図のもととなった資料は，エカチェリナ2世時代の各県の一般測量調査報告といわれる。

ロシアにおいて測地学的な方法による地図作成が開始されたのは18世紀始めのピョートル大帝の時代という。そうした測量・調査の成果は例えば1745年に刊行された地図帳などから伺うことができるが，これを見ると全部が測量のデータによって作成されたものでないことは明らかである。この後，エカチェリナ2世の時代の1765年より，各県の一般測量調査が実施され，各地の詳細な地理的情報が中央政府に集積されたのである。この資料は今もロシアの文書館に保存され，ヨーロッパ・ロシアの歴史地理の研究上，第1級の史料とされている。



この図を見ると，当時のロシア人の生活空間の広がりと，地理的知識の集積について考えさせられる。ロシア南東部では遊牧地が広大な空間を占めている。この遊牧民と農耕民との境界は，その後1世紀の間に南東に大きく移動することになるだろう。

場所による情報の精疎は，当時のロシア政府の持つ地理的情報の精疎を反映するものであろう。資料の入手が難しかったのか，総じて，外国は詳しくない。現在のポーランドであるビスワ河左岸は詳しくないが，右岸は詳しくなる。オーストリアやトルコは詳しくない。ロシアの北方地域，北カフカスやボルガ左岸など，ロシアの周辺部も簡略である。第3次ポーランド分割によって手にしたばかりの領土は非常によく調査されている。

地形の変化も認められる。たとえばカスピ海の北部は，現在とかなり形が違い，相当広かったことが伺える。

帝政ロシア時代には，地図の出版は制限されており，市販可能となったのは19世紀後半のアレクサンドル2世時代になってのことだった。それ以前に制作された図は，きわめて小部数だった筈であり，入手は困難である。個別の村を識別出来るほど詳細な帝政期ロシアの地図の所蔵を，筆者は，国内では他に知らない。また。欧米の大図書館でも，ごく少数と思われる。

北大附属図書館は，ロシア歴史地理研究上大いに活用が期待される，貴重で優れたツールを得たのである。

（とない　ゆづる）

平成8年度自然科学系図書資料購入費で購入した資料

平成8年度自然科学系図書資料として，下記の資料を購入しました。広く活用されることを期待しております。なお，自然科学系図書資料購入費とは自然科学系の教育・研究に必要な資料で，かつ学内での予算措置が困難な大型資料について収書計画書を提出し，文部省の審査を経て配分される予算をいいます。

・Advances in Experimental Medicine and Biology（実験医学・生物学の進歩叢書）196冊
・Dictionary of Natural Products（天然化合物辞典）Main Work and Supplement 1-3.

平成8年度特別図書購入費で購入した資料

・Asiatische Studien: Zeitschrift der Schweizer Gesellschaft fur Asienkunde（スイス・アジア学会誌）Vol.1-45（1947-1991）

スイスアジア学会の機関誌。アジア研究全般について，スイス国内での研究はもとより広く全世界の研究者の論文が収録されている。

・Yale French Studies（イェール大学フランス語学・文学研究）Vol.1-69（1948-1969）

フランス語学・文学に関して，特定のテーマを巻ごとに選定し，それに関する緒論文を掲載したもので，英語圏におけるフランス語学・文学研究の最も権威ある雑誌である。

・**教育持論　復刻版**　1358－1495号（大正12－15年）

明治18年から約半世紀の間刊行された近・現代教育ジャーナリズムの第一級資料。

・**明治期教育関係雑誌集成**（マイクロフィルム）
明治前期に東京で刊行された教育関係雑誌24誌を収録したもの。

・Uniform Commercial Code: Confidential Drafts（米国統一商事法典：機密草案集成）
統一商事法典は，全米の取引商法を統一する目的で起草されたモデル法で，1952年に公表後全米50州で採択されている。本「機密草案集成」は，「1977年第8章修正」に至るまでの内部資料を整理・収録したもの。

・**GHQトップシークレット文書集成　第2期　行政・法律関係文書集成　復刻版**
戦後日本の法制度改革の中心となった連合国軍総指令部内の民政局，法制局，民間資料局及び情報局長等の保持する「トップシークレット」として分類された資料ファイルを収録したもの。

・International Encyclopedia of Business and Management（ビジネス・経営国際事典）6 vols.
ビジネス・経営を歴史，理論，実務から世界各国の関連トピックスまで徹底分析した事典。

・Chinese Business Enterprise（中国人企業）4 vols.
伝統的中国人企業の組織構造から近隣諸国，西洋諸国との今日の貿易関係に至るまで，中国人企業に関する諸問題を包括的に論じた論文集。

・Industrial Relations Reserch Association.　Proceedings of Annual Meeting（労使関係研究協会年報）1980-1995.
労使関係研究に関するアメリカ第一の学会年報，学会発表に基づく主要論文が収録されている。

・US Congress Joint Economic Committee Publications 1947-1986. Reports, Hearings, Documents and Committee Prints. 17. Innovation, Production and Productivity
（米国議会上下両院合同経済委員会刊行文書集1947－1986年　報告書，公聴会記録，ドキュメント，プリント資料集17．技術革新，生産，生産性）
米国議会上下両院合同経済委員会の報告書・公聴会記録等の資料の中から1940～1980年代のアメリカ合衆国の技術，生産，生産性に関係する部分を集成したもの。

各種委員会委員

1．委員会委員

図書館委員会　　(平成9年5月28日現在)

部局	官職	氏名	任期
	館長	原　暉之	平成 9. 4. 1～平成11. 3.31
	分館長	吉野悦雄	平成 9. 4. 1～平成11. 3.31
文学部	教授	津田芳郎	平成 8. 4. 1～平成10. 3.31
教育学部	〃	竹田正直	平成 8. 4. 1～平成10. 3.31
法学部	〃	吉田克己	平成 8. 4. 1～平成10. 3.31
経済学部	助教授	岡部洋實	平成 8. 1. 1～平成 9.12.31
大学院理学研究科	教授	岸本晶孝	平成 9. 4. 1～平成11. 3.31
医学部	〃	阿部和厚	平成 8. 4. 1～平成10. 3.31
歯学部	〃	小口春久	平成 8. 4. 1～平成10. 3.31
薬学部	助教授	周東　智	平成 8. 4. 1～平成10. 3.31
大学院工学研究科	教授	伊藤精彦	平成 7.10. 1～平成 9. 9.30
農学部	〃	黒河　功	平成 9. 4. 1～平成11. 3.31
大学院獣医学研究科	助教授	安田　準	平成 9. 4. 1～平成11. 3.31
水産学部	教授	太田　亨	平成 8. 5. 1～平成10. 4.30
言語文化部	助教授	大﨑雄二	平成 9. 5. 1～平成11. 4.30
大学院地球環境科学研究科	教授	西　則雄	平成 9. 5.28～平成11. 5.27
低温科学研究所	〃	芦田正明	平成 9. 4. 1～平成11. 3.31
電子科学研究所	〃	下澤楯夫	平成 8.10. 1～平成10. 9.30
免疫科学研究所	〃	上出利光	平成 8. 4. 1～平成10. 3.31
医学部附属病院	〃	杉原平樹	平成 8. 9.16～平成10. 9.15
触媒化学研究センター	〃	松島龍夫	平成 9. 4. 1～平成11. 3.31
スラブ研究センター	〃	望月哲男	平成 9. 4. 1～平成11. 3.31
高等教育機能開発総合センター	〃	町井輝久	平成 8. 9.18～平成10. 9.17
医療技術短期大学部	〃	中村仁志夫	平成 9. 4. 1～平成11. 3.31

北分館委員会（平成9年度）　　(平成9年5月1日現在)

部局	官職	氏名
	分館長	吉野悦雄
文学部	教授	津田芳郎
言語文化部	助教授	大﨑雄二
経済学部	助教授	岡部洋實
大学院理学研究科	教授	岸本晶孝
大学院工学研究科	〃	伊藤精彦
歯学部	〃	小口春久
大学院理学研究科	助教授	山下正兼
言語文化部	教授	加納邦光

2．小委員会委員

附属図書館新営検討小委員会　（平成９年５月１日現在）

部局	官職	氏名
	館長	原　暉之
	分館長	吉野悦雄
教育学部	教授	竹田正直
法学部	〃	吉田克己
大学院理学研究科	〃	岸本晶孝
医学部	〃	阿部和厚
歯学部	〃	小口春久
農学部	〃	黒河　功
大学院獣医学研究科	助教授	安田　準
言語文化部	助教授	大崎雄二
電子科学研究所	教授	下澤楯夫

電子図書館検討小委員会　（平成９年８月５日現在）

部局	官職	氏名
	館長	原　暉之
	分館長	吉野悦雄
経済学部	助教授	岡部洋實
薬学部	〃	周東　智
大学院工学研究科	教授	伊藤精彦
大学院地球環境科学研究科	〃	西　則雄
免疫科学研究所	〃	上出利光
高等教育機能開発総合センター	〃	町井輝久
大学院工学研究科	〃	宮永喜一

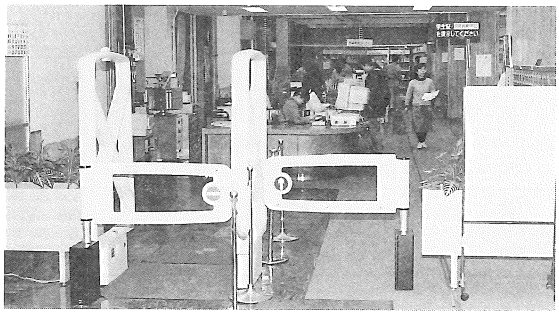
学術文献データベース等検討小委員会　（平成９年９月３日現在）

部局	官職	氏名
	館長	原　暉之
	分館長	吉野悦雄
文学部	教授	津田芳郎
低温科学研究所	〃	芦田正明
医学部附属病院	〃	杉原平樹
触媒化学研究センター	〃	松島龍夫
スラブ研究センター	〃	望月哲男
医療技術短期大学部	〃	中村仁志夫
教育学部	助教授	大野栄三
大学院理学研究科	教授	福永典之
医学部附属病院	〃	櫻井恒太郎

お知らせ

ブックディテクションシステムを導入しました

本年4月から本館に，ブックディテクションシステム（自動入退館管理装置）を導入しました。これにより開架閲覧室にカバン等を持ち込めることになります。ただし，書庫に入庫される場合は，カバン等はロッカーに預けることとなりますので御留意ください。



開館時間の延長を拡大しました

附属図書館では本年4月1日から，これまで行っていた延長開館を拡大し，平日は午前9時から午後10時まで，土曜日及び閉館していた日曜日は午前11時から午後5時まで（北分館は土・日曜日閉館）開館することといたしました。

大学院教育の整備充実と学部一貫教育への移行に伴い，教官及び学生の図書館利用が増加し利用時間の拡大が強く求められておりました。

附属図書館では，これらの要望に応え図書館サービスの向上を計るとともに本学の教育研究の活性化に向けて開館時間の延長を拡大したものです。

また，医学部図書室でも平日は午後10時まで開館しております。

なお，春・夏・冬季休業期間は，開館時間を変更しますので，掲示板及びホームページなどで確認してください。

ホームページができました

附属図書館及び部局図書室の情報を見ることができます。

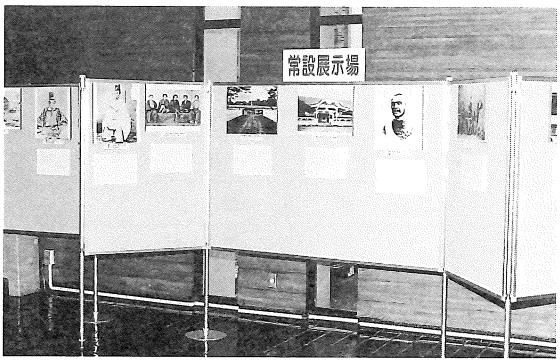
URLは，http://ambitious.lib.hokudai.ac.jp/です。アクセスしてみてください。

常設展示場が設置されました

本年3月から2階ロビーに，本館が所蔵している幕末から明治初期にいたる北海道関係の古写真を常設展示し，本館利用者等に北海道のなりたちを再現し広く供覧しております。

この常設展示場は，平成8年度国立大学図書館協議会公開事業の巡回展示に併設展示してあった古写真で，強い要望により引き続き展示することとしたものです。

なお，古写真は今後更新する予定です。



第3期遡及入力事業計画第1年次（平成8年度）について（報告）

平成8年度から実施しております第3期遡及入力事業5カ年計画第1年次(平成8年度)の入力冊数は，以下のとおりです。

なお，平成9年度は25,000冊の入力を予定しております。

1．第3期遡及入力事業第1年次（平成8年度）入力冊数

部　局	和書入力冊数	洋書入力冊数	入力冊数合計
図書館本館	2,100	1,276	3,376
北分館	1,517	4,700	6,217
教育学部	1,802	1,866	3,668
医学部	0	710	710
歯学部	762	417	1,179
農学部	0	144	144
獣医学部	63	104	167
スラ研	713	1	714
合　計	6,957	9,218	16,175

2．第3期遡及入力事業第2年次（平成9年度）の入力予定

入力予定：25,000冊　　1）附属図書館所蔵図書　7,000冊

2）文系部局所蔵図書　12,000冊

3）自然系部局所蔵図書　6,000冊

法学系拡大遡及入力事業について（中間報告）

平成8年11月から実施しております附属図書館法学系分野資料を対象とした拡大遡及入力事業の入力冊数は，以下のとおりです（中間報告)。

なお，本事業の入力は平成10年2月までを目処に15,000冊を予定しております。

入力期間	和書入力冊数	洋書入力冊数	入力冊数合計
平成8年11月～9年3月	2,436	4,172	6,608

文献画像伝送実験システムを導入しました

1．システムの概要等

附属図書館では，平成4年度から開始された学術情報センターのILLシステムに参画し，大学図書館間での文献複写及び現物貸借のサービスに貢献しています。また，電子図書館的機能の充実計画の一環として，学内における原文献提供（ドキュメント・デリバリー）サービスの提供を構想しています。この構想は，資料のコピー提供サービスをネットワークを介して行うもので，今後益々要求される研究者への資料提供の迅速化，高度化に応えようとするものです。

文献画像伝送実験システムは，原文献提供サービスの迅速化，高度化の実験を学術情報センターとの間で行い，今後の本格的な展開へ向けての準備を行うために，平成8年11月に導入されました。

システムの基本機能は以下のとおりです。

1）複写したデータをデジタル形式で保存する。

2）図書等の資料を上向きにセットし原稿を置いたままページをめくることにより複写可能である。

3）資料の綴じ部の歪みや影を自動的に補正する機能を有している。

4）パーソナル・コンピュータを複写機と接続することで，FAXモデムやインターネット接続装置と組み合わせて文献画像の伝送が可能である。

主なシステム構成は以下のとおりです。

1）画像取り込み装置　ミノルタ社製　PS3000

2）画像データ出力装置　ミノルタ社製　Di15f（5 WAY）

3）制御コンピュータ　IBM社製　パーソナル・コンピュータ

2．学術情報センターとの第1回目の実験デモを実施しました

文部省大学図書館係長井深順二氏及び学術情報センター目録情報課長笹川郁夫氏立ち会いのもとに，平成8年11月21日㈭に，画像伝送のデモが実施され，成功裡に終了しました。

今後は，1）ユーザインターフェースの改良，2）図書等の資料をデジタル形式で保存する過程での行程，時間等の検証，3）デジタル形式で保存したデータを伝送する過程での行程，時間等の検証，等更に多面的な実験を重ねていく予定となっています。

外部データベース検索サービスを拡張しました

附属図書館では，平成9年度より，これまでの外部データベース検索サービスを拡張し，新たに三つのデータベース（CA on CD, PsycLIT，医学中央雑誌）を追加するとともに，BIOSISの検索インターフェースの向上をはかることにしました。

また，利用者の範囲を拡大し，大学院学生，学部学生の方も指導教官が利用（利用負担金の校費支出）を認めた場合，正式に利用できるようになりました。

以下に学内LANでサービスしているデータベースの概要をお知らせします。

1．CA on CD

1）分野　化学

2）概要

冊子体のChemical AbstractsをCD-ROM化したデータベースで，巻末索引を含む冊子体にある全ての情報が利用できます。

3）収録範囲　1997－Current（月1回更新）

4）利用負担金　年間20,000円／ユーザ

5）動作環境

・Windows95，WindowsNT3.51，WindowsNT4.0

・Windows3.1（ファイル共有機能をサポートする通信ソフトが必要）

・Macintosh（有料のNFSクライアントソフトが必要）

2．PsycLIT

1）分野　心理学

2）概要

冊子体のPsychological AbstractsをCD-ROM化したデータベースで，世界の約45か国で刊行中の図書，雑誌の論文等を収録しています。

3）収録範囲　1974－Current（年4回更新）

4）利用負担金　年間10,000円／ユーザ

5）動作環境

・Windows95，WindowsNT3.51，WindowsNT4.0，Macintosh

・Webブラウザでの検索も可能

3．医学中央雑誌

1）分野　医学・歯学・薬学

2）概要

冊子体の医学中央雑誌をCD-ROM化したデータベースで，約2,300誌の雑誌の論文（年間約23万件）を収録しています。

3）収録範囲　1987－Current（月1回更新）

4）利用負担金　年間10,000円／ユーザ

5）動作環境

・Windows95，WindowsNT3.51，WindowsNT4.0

・Macintosh（有料のNFSクライアントソフトが必要）

4．BIOSIS

1）分野　生物学

2）内容概要

ライフサイエンス及び学際分野をカバーし，世界各国の約6,000タイトルを対象とした文献抄録を収録しています。

3）収録範囲　1992－Current（年4回更新）

4）利用負担金　年間10,000円／ユーザ

5）動作環境

・Windows95，WindowsNT3.51，WindowsNT4.0，Macintosh

・Webブラウザでの検索も可能

5．MEDLINE

1）分野　医学・歯学・薬学・看護学

2）内容概要

冊子体のIndex Medicus等に対応したデータベースで，3,500以上の雑誌から約1,700万件の文献・抄録を収録しています。

3）収録範囲　1966－Current（月1回更新）

4）利用負担金　年間10,000円／ユーザ

5）動作環境

VT100エミュレーション可能な通信ソフト搭載機器

6．Current Contents

1）分野　全7分野

1．Agriculture, Biology & Environmental Sciences

2．Arts & Humanities

3．Clinical Medicine

4．Engineering, Computing & Technology

5．Life Sciences

6．Physical, Chemical & Earth Sciences

7．Social & Behavioral Sciences

2）内容概要

世界の主要な学術雑誌の目次速報データベースです。

3）収録範囲　1996－Current（週1回更新）

4）利用負担金　年間20,000円／ユーザ

5）動作環境

VT100エミュレーション可能な通信ソフト搭載機器

附属図書館は，多様なニーズに基づいた学術情報の提供と利用環境の改善に努めております。より多くの研究者・学生の利用申請をお願い致します。

国立大学図書館協議会公開事業巡回展示「幕末・明治期古写真等資料展」が開催される

国立大学図書館協議会の公開事業として実施された巡回展示で，長崎大学所蔵の「幕末・明治期古写真等資料展～忘れられた日本の風景，風俗～」を平成9年1月22日㈬から28日㈫までの日程で開催されました。

日本に写真技術が導入されて間もない頃の幕末・明治期の長崎，横浜，函館の風景などの古写真100点を展示しました。また同時に，本館

所蔵の古写真24点も「北の幕あけ～蝦夷地から北海道へ～」と題しての併設展示を行い，開催期間中は831名が来館しました。

1月24日㈮には，元本学法学部助教授の秋月俊幸氏による「江戸時代における日本北辺地図」と題して講演会が開催され，81名の参加者は17世紀から19世紀にわたる日本北辺地図の変遷を辿りながら背景を詳細に分析した講演を熱心に聴講していました。

本館では，電子展示としてインターネットで公開しております。アドレスは次のとおりです。



講演する秋月俊幸氏

http://ambitious.lib.hokudai.ac.jp/collection/makuake/

学部等紹介ビデオコーナーを設置しました

附属図書館玄関ロビーにビデオ装置を設置し，各部局等から提供のあった紹介ビデオを毎日午後に2時間程度放映しております。ぜひご覧ください。

喫煙場所を変更しました

附属図書館本館では，玄関ロビーを入って左側に空気清浄機を設置し，喫煙場所として指定しました。その他館内全域は，禁煙となっておりますのでご注意願います。

教官著作寄贈図書

平成 9.1.1～9.5.31

[本　館]

○教育学部

木村保茂		現代日本の建設労働問題　学文社　1997
須田　力	(共著)	積雪寒冷地における高齢者の生活と運動　北海道大学図書刊行会　1997
竹田正直	(編)	International Higher Education Research　竹田正直　1997

○法学部

奥田安弘		市民のための国籍法・戸籍法入門　明石書店　1997
瀬川信久	(共著)	基礎演習　民法（財産法）　有斐閣　1993
〃	〃	民法判例集　債権各論　有斐閣　1997
吉田克己	(共編)	高齢社会と介護システム　尚学社　1997
〃	(共著)	高齢者介護と家族――民法と社会保障法の接点――　信山社出版　1997
池田清治		契約交渉の破棄とその責任――現代における信頼保護の一態様　有斐閣　1997
田村善之		機能的知的財産法の理論　信山社出版　1996

○経済学部

米　山　喜久治　（編）　北海道の内発的発展と情報創造　1989

〃　北海道の内発的発展と政策意思決定過程　1990

〃　北海道の内発的発展と経済団体　米山喜久治　1991

〃　（編）　現代の産業と経営　北海道大学経済学部地域経済研究資料室　1991

○農学部

三　浦　　清　（共編）　わが国における木材加水分解工業　――北海道木材化学株式会社の記録――　エフ・コピント富士書院　1997

[北分館]

○教育学部

木　村　保　茂　　現代日本の建設労働問題　学文社　1997

須　田　　力　（共著）　積雪寒冷地における高齢者の生活と運動　北海道大学図書刊行会　1997

※御恵贈誠にありがとうございました。今後とも図書館資料の充実のため御協力くださいますようお願いいたします。

会議（8.12.1～9.4.30）

【学　外】

○平成8年度国立大学附属図書館事務部長会議

〈平成9年1月23日㈭〉当番校：金沢大学

〔出席者：事務部長　三上洋由〕

協議事項

1．電子図書館への取り組みについて

2．外国図書の価格交渉について

3．大学図書館における電子図書館的機能の整備の具体化と図書館相互協力について

4．第9次定員削減と図書館の対応

5．図書系以外の部門との人事交流を推進する上での諸問題について

6．図書館業務の外注化を促進させる方策について

7．学術審議会建議「大学図書館における電子図書館的機能の充実・強化について」への対応について

8．本会議についての申合せ

【学　内】

○図書担当掛長会議

〈平成8年12月5日㈭〉

報告事項

1．第164回及び第165回図書館委員会について

2．図書資料（大型コレクション）及び自然科学系図書資料について

3．第29回国立七大学附属図書館部長会議並びに第70次国立七大学附属図書館協議会について

○第166回図書館委員会

〈平成9年1月17日㈮〉

審議事項

1．附属図書館開館時間の延長について

2．北海道大学附属図書館利用規程の一部改正（案）について

3．（仮称）北海道大学附属図書館新営検討小委員会の設置について

4．PsycLITの導入について

報告事項

1．附属図書館開館時間の延長に伴う試行の実施について

2．附属図書館の常設展示場の設置について
3．医学中央雑誌（CD-ROM）について
4．その他

○北海道地区大学図書館協議会第1回幹事館会議〈平成9年1月30日㈭〉

議　　題
1．平成9年度事業計画（案）について
2．第40回研究集会及び第47回総会について
3．幹事館，監査館及び当番館の予定一覧について
4．新規事業計画について
5．研究集会のオブザーバー館の取扱いについて
6．その他

報告事項
1．第39回研究集会記録誌について
2．第36回北海道図書館連絡会議について
3．図書館年鑑1997北海道ブロック協力者会議について
4．第2回幹事館会議について

○北海道地区国立大学附属図書館事務（部・課）長会議
〈平成9年2月13日㈭〉

協議事項
1．第44回国立大学図書館協議会総会について
2．第29回国立大学図書館協議会北海道地区協議会について
3．外国図書の価格交渉について
4．地域における館種を超えた図書館間の相互協力について
5．北海道地区大学間共同サーバの構築について

報告事項
1．国立大学図書館協議会理事会について
2．第29回国立七大学附属図書館部課長会議について
3．第70次国立七大学附属図書館協議会について
4．平成9年度学術情報基盤の整備充実関係予算（案）の概要及び平成9年度大学図書館関係予算（案）の概要について
5．平成9年度学術情報システム地域講習会の開催予定について
6．北海道地区大学図書館協議会年間行事について

○第40回北海道地区大学図書館職員研究集会企画委員会(第1回)〈平成9年2月26日㈬〉

○附属図書館新営検討小委員会〈平成9年3月6日㈭〉

議題1．附属図書館の新営について

○第167回図書館委員会
〈平成9年3月18日㈫〉

審議事項
1．平成10年度概算要求事項について
2．平成9年度図書資料（大型コレクション）収書計画について
3．平成9年度自然科学系図書資料収書計画について
4．医学中央雑誌（CD-ROM）の導入について
5．Current Contentsの利用負担金の改訂について

報告事項
1．附属図書館新営検討小委員会について
2．附属図書館開館時間の延長に伴う試行結果及び平成9年度開館時間延長実施計画について
3．堀元理学部教授の蔵書について
4．国立大学図書館協議会巡回展示の結果について

○図書担当掛長会議
〈平成9年3月24日㈪〉

報告事項
1．第166回及び第167回図書館委員会について
2．ブックディテクションの設置について
3．図書館業務用端末のATM－LANへの移行について
4．平成9年度学術情報基盤の整備充実関係予（案）の概要等について

○第40回北海道地区大学図書館職員研究集会企画委員会（第2回）
〈平成9年3月26日㈬〉
○第40回北海道地区大学図書館職員研究集会企画委員会（第3回）
〈平成9年4月23日㈬〉
○第29回国立大学図書館協議会北海道地区協議会
〈平成9年4月24日㈭〉
協議事項
1．地域における館種を超えた図書館間の相互協力について
2．北海道地区大学間共同サーバの構築について
3．第44回国立大学図書館協議会総会について
報告事項
1．北海道大学図書館講演会について
2．平成9年度学術情報システム地域講習会の開催について
講 演 会
「マルチメディアと将来の図書館像」

研修・講習会等 (8.12.1~9.4.30)

【学　　外】
○平成8年度第4回目録システム講習会（雑誌コース）
〈平成8年12月3日㈫～12月5日㈭〉
（場所：学術情報センター）
受講者：高崎仁雄（附属図書館情報システム課学術情報掛長）
○国立大学図書館協議会シンポジウム
〈平成8年12月11日㈬～12月12日㈭〉
（場所：千葉大学）
出席者：東重俊（附属図書館情報サービス課北分館情報サービス掛長）

【学　　内】
○平成8年度北海道大学事務職員接遇研修
〈平成8年12月3日㈫～12月5日㈭〉
受講者：佐藤剛（附属図書館情報管理課図書受入掛），中野真弓美（医学部図書整理掛），平野知（農学部図書整理掛）
○平成9年度図書館情報システム新任担当者実務研修（場所：附属図書館）
①端末基本操作研修
4月7日㈪　13：00～16：30
受講者数：10名　担当：情報処理掛
②検索・閲覧管理研修
4月8日㈫　9：00～16：30
受講者数：7名　担当：資料サービス掛
③図書管理システム研修
4月9日㈬　9：00～16：30
受講者数：7名　担当：図書受入掛
④ILLシステム研修
4月10日㈭～11日㈮　9：00～16：30
受講者数：6名　担当：相互利用掛
⑤雑誌管理システム研修
4月14日㈪～16日㈬　9：00～16：30
受講者数：8名　担当：学術情報掛
⑥目録管理システム研修
4月21日㈪～23日㈬
受講者数：8名　担当：目録情報掛
○平成9年度北海道大学初任職員研修（行政職）
4月22日㈫～25日㈮
受講者：中村陽（附属図書館情報サービス課相互利用掛），石森久美（附属図書館情報サービス課北分館情報サービス掛），東理直子（附属図書館情報システム課学術情報掛），平田栄夫（工学部総務課図書閲覧掛），糸林真優子（農学部図書整理掛）

人　事　往　来

平成9年4月1日付け異動

採　用

中　村　　陽（附属図書館情報サービス課相互利用掛）
石　森　久　美（附属図書館情報サービス課北分館情報サービス掛）
東　理　直　子（附属図書館情報システム課学術情報掛）
平　田　栄　夫（工学部総務課図書閲覧掛）
糸　林　真優子（農学部図書整理掛）

併任・昇任・配置換

原　　暉　之	附属図書館長（11.3.31まで）（北海道大学スラブ研究センター教授）
吉　野　悦　雄	附属図書館北分館長（11.3.31まで）（北海道大学経済学部教授）
東　　高　明	附属図書館情報サービス課長（金沢大学附属図書館情報サービス課長）
宇　野　弘　純	附属図書館情報サービス課課長補佐（附属図書館情報システム課図書館専門員）
山　口　國　雄	附属図書館情報管理課図書館専門員（附属図書館情報管理課図書受入掛長）
和　田　章　憲	附属図書館情報システム課図書館専門員（附属図書館情報サービス課資料サービス掛長）
紙　屋　国　男	附属図書館情報管理課図書受入掛長（北見工業大学附属図書館学術情報係長）
東　　重　俊	附属図書館情報管理課北分館情報管理掛長（附属図書館情報サービス課北分館情報サービス掛長）
松　本　礼　一	附属図書館情報サービス課資料サービス掛長（旭川医科大学教務部図書課情報サービス係長）
鎌　田　由紀子	附属図書館情報サービス課北分館情報サービス掛長（農学部図書整理掛）
冨　本　壽　子	経済学部図書掛長（旭川医科大学教務部図書課情報管理係長）
佐　藤　清　一	理学部図書掛長（附属図書館情報管理課北分館情報管理掛長）
木　浪　　昇	農学部図書閲覧掛長（苫小牧工業高等専門学校庶務課資料サービス係長）
齋　藤　壽美子	附属図書館情報システム課目録情報掛（獣医学部図書掛）
松　尾　博　朋	附属図書館情報システム課目録情報掛（附属図書館情報システム課情報処理掛）
小　坂　麻衣子	附属図書館情報システム課情報処理掛（附属図書館情報システム課学術情報掛）
山　田　良　江	教育学部図書掛（電子科学研究所図書室）
山　家　尚　子	法学部スラブ研究センター事務掛（附属図書館情報システム課目録情報掛）
菊　池　健　二	理学部図書掛（教育学部図書掛）
尾　山　り　さ	理学部数学専攻図書室（歯学部総務課人事掛）
佐々木　　圭	医学部図書整理掛（附属図書館情報サービス課相互利用掛）
土　田　京　子	歯学部総務課図書掛（薬学部図書掛）
川　村　　幸	薬学部図書掛（附属図書館情報サービス課北分館情報サービス掛）
土　田　健　治	農学部図書閲覧掛（工学部総務課図書閲覧掛）

松　野　とも子　　農学部図書整理掛（法学部スラブ研究センター事務掛）
平　松　麗　子　　獣医学部図書掛（触媒化学研究センター図書室）
福　井　みゆき　　電子科学研究所図書室（理学部数学専攻図書室）
長　野　美年子　　触媒化学研究センター図書室（歯学部総務課図書掛）

転　出

内　藤　英　雄　　筑波大学図書館部情報管理課長（附属図書館情報サービス課長）
小　川　　聡　　旭川医科大学教務部図書課情報管理係長（附属図書館情報管理課北分館情報管理掛）
桑　野　勇　次　　北見工業大学附属図書館学術情報係長（理学部図書掛）
小　峯　邦　夫　　苫小牧工業高等専門学校庶務課資料サービス係長（農学部図書閲覧掛）
鵜　澤　和　往　　学術情報センター事業部目録情報課雑誌目録情報係（附属図書館情報システム課目録情報掛）

平成9年3月31日付け異動

定年退職

伊　藤　秀　治　　附属図書館情報サービス課課長補佐
佐　藤　　透　　経済学部図書掛長
坪　田　充　弘　　理学部図書掛長
桑　原　　蔚　　農学部図書閲覧掛長
船　木　俊　男　　医学部図書整理掛
大　橋　和　子　　農学部森林科学科図書室

北海道大学附属図書館報「楡蔭」(ゆいん)　**通号 98 号**
ホームページ：WWW(http://ambitious.lib.hokudai.ac.jp)

発 行 人　附属図書館事務部長　三上　洋由

編集事務　東海安興・木村恵一・佐藤　剛・首藤佳子・長井伸一・中村　陽・東理直子・片桐和子・石丸　恵・菊池健二・冨本壽子・平田栄夫・平野　知・高塚　恵

発 行 所　北海道大学附属図書館　札幌市北区北 8 条西 5 丁目
TEL 011-706-2967, FAX 011-747-2855

印 刷 所　㈱アイワード